

2023年2月5日

全国大学国語教育学会
2022年度 学会通信 第2号

全国大学国語教育学会事務局

全国大学国語教育学会会員の皆様

今冬は寒波が次々と日本列島に押し寄せ、記録的な豪雪が報じられています。それでも、スーパーマーケットには菜の花が並び、前栽のつぼみも赤みを増してきました。少しずつ春の足音が聞こえてくるこのごろです。本学会会員の皆様におかれましては、年度末の慌ただしい毎日をお過ごしのことと拝察します。

さて、2022年度学会通信第2号をお送りします。第144回春季大会は、島根大学を会場として対面にて開催いたします。また、『国語科教育』第九十四集の投稿につきまして、投稿方式が紙媒体による郵送から電子投稿システムによる投稿へと大きく変わります。詳しくは本通信及び学会ホームページにてご案内いたしますので、ふるってご投稿下さい。

◆全国大学国語教育学会マイページのご案内

学会ホームページにマイページをご用意いたしました。学会ホームページよりリンクがありますので、そこから登録頂けます。「登録情報の確認・変更」「年会費の納入状況の確認」が機能としてございます。ご自宅・ご所属先に変更があった際は、マイページにログインいただき、随時変更をお願いいたします。ログインには会員番号とパスワードが必要となります。大変お手数をおかけしますが、ログイン画面中央部の「パスワードの設定はこちら」より、会員番号と学会に登録されているメールアドレスをご入力の上、パスワードの設定をお願いいたします。メールアドレスの登録が無い方、不明の方は、事務局までお問い合わせください。



マイページ登録
はこちら

●お問い合わせ先(事務局) : jtsj-post@as.bunken.co.jp

今後学会通信のメール配信を予定しております。その他、学会からの様々なお知らせをメールでご案内する可能性がございますので、お早めにマイページにログインいただき、メールアドレスの登録をお願い申し上げます。

第144回全国大学国語教育学会 島根大会(対面開催)について

◆第144回全国大学国語教育学会 島根大会 (対面開催)のご案内 (第1次)

実行委員長 田中耕司(島根大学)

皆様におかれましては、お忙しい日々をお過ごしのことと存じます。

さて、第144回全国大学国語教育学会・島根大会は、コロナ対策の制限が緩和されている状況に鑑み、対面で開催いたします。多くの会員の皆様にご参加いただけますようお願い申し上げます。

1. 開催日：2023(令和5)年 5月27日(土)、5月28日(日)

2. 会 場：島根大学 松江キャンパス 教養講義棟
(〒690-8504 島根県松江市西川津町1060)

- 学会参加については、事前申し込みを基本といたします。以下の案内にしたがって、事前に参加申し込みの手続きをお願いいたします。
- 宿泊ホテルについては、案内・斡旋をいたしません。各自でお願いいたします。駅周辺には複数のホテルがありますが、なるべく早めに予約されることをお勧めいたします。なお、会場の最寄り駅は、JR松江駅となり、駅から会場までバスで15分、徒歩だと30分程度となります。
- 大学の駐車場はごく限られた数しかありません(コインパーキングもほとんどありません)。可能な限り、公共交通機関やタクシーなどをご利用ください。

島根大学へのアクセス

<https://www.shimane-u.ac.jp/access/>

松江キャンパスマップ

https://www.shimane-u.ac.jp/campus_maps/map_matsue.html

3. 大会事前情報等：

島根大会広報サイト (<https://sites.google.com/view/jtsj2023shimane/>)

*シンポジウムや課題研究発表、公開講座に関する情報を随時更新していきます。

*コロナウイルス対策に関する大会運営上の諸注意や状況に鑑みての変更点などについても随時このサイトに情報をアップします。

4. 二日間の概要（予定）

第1日 5月27日（土）

8:45	受付
9:30	自由研究発表
12:20	昼食
12:55	理事会
14:00	総会
15:10	シンポジウム
17:40	

第2日 5月28日（日）

9:00	受付
9:30	課題研究発表
12:00	昼食
12:30	若手研究交流企画
13:40	自由研究発表 ラウンドテーブル
16:30	

- 1日目の理事会、2日目の若手交流企画は、コロナ対策として昼食を取った後にそれぞれ行います。

<第1日目 5月27日(土)>

- AM 自由研究発表
- PM 理事会・総会

シンポジウム 授業場面における国語科教科内容の生成（仮題）

コーディネーター 富安慎吾（島根大学）
登壇者 羽島彩加（広島大学附属小学校）
青山由紀（筑波大学附属小学校）
守田庸一（三重大学）

<第2日目 5月28日(日)>

- AM 課題研究発表

国語教育学研究を見通す② 国語科内外から見直す、わたしたちの役割

コーディネーター 池田匡史(岡山大学)
登壇者 藤森裕治(文教大学)
奥村好美(京都大学)
山田秀和(岡山大学)

- PM 若手研究交流企画
自由研究発表
ラウンドテーブル

<公開講座について>

5月14日（日）14：00～17:00（Zoomミーティング）※アーカイブ配信はありません
テーマ：ICTと国語科授業実践②―「マンガ」で「読むこと」の力をつける―
コーディネーター 羽田潤（兵庫教育大学）
登壇者 大久保紀一郎（島根大学）
岸圭介（早稲田大学系属早稲田実業学校初等部）

※今回の公開講座は、学会の大会当日とは異なる日程で開催します。
※参加申し込みは <https://forms.gle/usnDoxCbC8HLeDtGA> から（定員300名）



※公開講座にのみ参加する場合には、学会全体への参加申し込みは必要ありません（無料で参加することができます。）

※藤子・F・不二雄『ドラえもん』第28巻(小学館，てんとう虫コミックス)収録
「新種図鑑で有名になろう」をお手元に準備してください。（藤子・F・不二雄大全
集では『ドラえもん』第11巻収録）

※公開講座に関する情報は島根大会広報サイトに随時更新していきます。
(<https://sites.google.com/view/jtsj2023shimane/公開講座>)

5. 発表の募集

発表は、①自由研究発表と②ラウンドテーブルの二種類になります。コロナ対策の観点から発表数の制限を行います。①自由研究発表は80名まで、②ラウンドテーブルは6会場までといたします。いずれも先着順で、制限数を超えた場合はご辞退いただくことになります。また、いずれも発表要旨を事前に提出する必要があります。

(1) 募集区分

- ①自由研究発表：発表時間20分＋質疑応答10分
- ②ラウンドテーブル：1時間30分～2時間50分

(2) 申し込み方法

発表・参加申込システム <https://iap-jp.org/jtsj/conf/member/login> よりお申し込みください(島根大会広報サイトからもお入りいただけます)。申し込み開始は、2月20日(月)を予定しています。

なお、Webでの申し込みが難しい場合に限り、別のお申し込み方法をご案内いたします。大会ヘルプデスク(後述7. 参照)までお問い合わせください。

(3) 申し込み締切

発表申し込み締切 **3月23日（木） 17時**

要旨投稿締切 **4月14日（金） 正午**

* 要旨について、締切日を過ぎた場合は、要旨掲載予定箇所が白紙となります。同時に、島根大会資料サイトへの要旨掲載も行えなくなります。ご注意ください。

(4) 申し込み上のご注意

①発表資格について

自由研究発表の発表申込者(筆頭発表者)及び共同発表者と、ラウンドテーブルの発表申込者(コーディネーター)は、本学会の会員資格を有し、年会費を納入していることが条件となります(年会費をご納入いただけない場合は、発表できません)。以下をご確認いただき、お手続きを済ませた上で申し込みをお願いいたします。

- ・ 今回の発表に際して、新規に入会される方

3月13日(月)までに入会申請を行い、3月30日(木)までに年会費をご納入ください。

- ・ 現会員の方

大会開催前年度(令和4年度)までの年会費を、発表申込締切日3月23日(木)までにご納入ください。

②その他注意事項

- 締切後の発表申し込みは、一切受け付けません。
- 自由研究発表の発表日指定はできません。
- 発表申し込み締切後は、題目・発表者等の変更はできません(締切日までは、ご自身でシステムから修正可能)。
- 発表申し込みの登録情報と要旨原稿の記載情報は、必ず一致させてください。やむを得ず変更があった場合は、必ず大会ヘルプデスクまでメールでご連絡ください。

(5) 発表申し込み時の入力項目

①自由研究発表

お申し込みは、筆頭発表者が行ってください。

- 発表区分(自由研究発表を選択)
- 題目・副題
- 筆頭発表者の氏名(ふりがな)、所属
- 共同発表者がいる場合は、その方の氏名(ふりがな)、所属
- プロジェクター使用希望の有無(パソコンは発表者持ち込みで、お願いいたします。会場によってRGBかHDMIのいずれかで接続することになりますので、必ず両方の接続アダプターをご準備ください。)

②ラウンドテーブル

お申し込みは、コーディネーターが行ってください。

- 発表区分(ラウンドテーブルを選択)
- 題目・副題
- 登壇者の氏名(ふりがな)、所属、発表形式
- 共同発表者がいる場合は、その方の氏名(ふりがな)、所属
- プロジェクター使用希望の有無(パソコンは発表者持ち込みで、お願いいたします。会場によってRGBかHDMIのいずれかで接続することになりますので、必ず両方の接続アダプターをご準備ください。)

(6) 発表要旨原稿の投稿

- 発表申し込み完了後、投稿できます。
- テンプレートは、学会ホームページ(<https://www.jtsj.org/taikai>)に掲載してありますのでご活用ください。A4判4ページ以内になります。大会発表要旨集(6.(2)④参照)には、A4判白黒で掲載)。
- 原稿は、PDFの形式にし、発表・参加申込システムより投稿してください(投稿画面にPDF変換の装置を設置しています)。なお、文字化け等が発生することがありますので、PDF変換後の原稿は必ずご確認ください。
- 要旨原稿はPDFデータを島根大会資料サイトにも掲載いたします。

(7) 発表にあたっての留意点

- 当日資料を用意する場合は、以下の点にご留意ください。
 - ・ 『発表要旨集』が配付されていることを前提に、要旨原稿との重複を避け、必要な資料にしぼって作成してください。
 - ・ 当日資料は、原則として「オンライン配布」です。PCやタブレット端末で表示されることを前提にして作成してください。資料を掲載するサイトにはパスワードを設定しますが、さほど強力なパスワードではありません。学習者等の個人情報や著作権に関する取り扱いにはご注意ください。
 - ・ 当日資料は、5月26日(金)までに、後日ご案内する資料サイトにご登録ください。
 - ・ 紙の当日資料についても30部を作成し、発表当日、発表会場(教室)までお持ちください(端末をお持ちでない参加者のためのものです)。大会事務局では印刷などの対応は一切致しません。また2日目の資料を1日目にお預かりすることもできません。

6. 大会の参加

事前参加申し込み締め切り5月8日(月)

**※振込決済による郵便振替の申込〆切は4月24日(月)まで
ですので、お早めにお手続きください。**

(1) 申し込み方法

学会参加については、事前申し込みが必要です。申し込み開始は、2月20日(月)からの予定で
す(開始前は、アクセスしても受付期間外のメッセージが表示されます)。

- 1) 発表・参加申込システムのログインページにアクセスする。
【発表・参加申込システム】 <https://iap-jp.org/jtsj/conf/member/login>
(島根大会広報サイトからもお入りいただけます)
- 2) ログインIDを取得する。登録したメールアドレスに、ログインIDが記載された完了通知メール
が配信される。
- 3) ログインIDと登録したメールアドレスを入力してシステムへログインする(このログインIDとメ
ールアドレスは、保存・管理をお願いいたします)。
- 4) 申込者情報を登録する(会員としてお申し込みいただく際は、会員番号が必要となります。会
員番号は、学会から会員の皆様宛に送られる封筒の宛名に記載されています)。
- 5) 事前参加申込、発表申込、要旨投稿を行う(申し込みが完了すると、登録したメールアドレスに
申込完了通知メールが配信されますのでご確認ください)。

(2) 大会参加費

①参加費用

以下、該当する金額をご納入ください。申し込み開始日(2月20日(月)を予定)以降、システ
ム上で手続きを行ってください。

事前申込 (5月8日まで受付)	当日申込 (会期前再オープン)
(会 員) 5,000円	(会 員) 6,000円
(学生会員) 3,000円	(学生会員) 5,000円
(非 会 員) 6,000円	(非 会 員) 6,000円
(学生非会員) 4,000円	(学生非会員) 5,000円

※感染拡大防止に向けた取組として、会期当日に現金での受付は行いません。

事前参加申込の締め切り後(5月9日以降)に、ご参加を希望される場合は、参加申込サイト
から当日参加申込と参加費のお支払い(クレジットカード決済のみ)を完了させた上で、会場
受付にお越しください。

※当日参加申込は、会期前にはオープンいたしますので、受付での人の密を避けるため、会場
に来られる前に申込をお済ませください。

※クレジットカードをお持ちでない方は郵便振替での事前申込期間(4月24日まで)の登録をお
願いたします。

※公開講座のみ参加の場合は、参加費用が不要のため、発表・参加申込システムによる参加登
録は不要です。参加方法については、島根大会広報サイトでお知らせいたします。

②お弁当(1日目・2日目)各日1,000円

※会場近隣には飲食店等がありません。お弁当の注文をお勧めします。(発表・参加申込
システムから注文してください。)

※事前申込期間(5月8日まで)のみ受付をいたします。

※理事会参加の役員の方々、シンポジウム・課題研究発表に登壇される先生方の弁当は、大会
事務局で準備いたします。

③お支払い方法

※郵便振替とクレジットカード決済のいずれかをご選択ください。

※郵便振替の場合：お振込先は、申し込み完了後に配信される完了通知メールに記載されています。郵便振替の申し込みは4月24日(月)まで、入金は4月25日(火)までにお願いいたします。

④その他注意事項

※ 発表申し込みと大会参加申し込みは別です。発表者は、必ず参加申し込みを行ってください。

※印刷された大会発表要旨集を希望される方は、実費(4000円・送料込み)でお求めいただけます。大会参加申し込み時に選択してください。5月8日までの入金を確認した申込は会期前に発送をいたします。それ以降の申し込み分については、会期後に発送をいたします。なお、大会発表要旨集は、大会終了半年後以降に、J-stageにアップする予定です。

※大会参加のため、新規に本学会に入会される方は、3月13日(月)までに入会申請を行い、3月30日(木)までに年会費をご納入ください。ご入会にはお時間がかかりますので、お早めにお手続きください。

※今大会では、当日資料は原則的に「オンライン配布」になります。PCやタブレットなど、当日資料閲覧のための端末をお持ちください。会場には十分にはコンセントがありません。モバイルバッテリーなどの準備をお願いいたします。なお、30部ほど紙の当日資料もありますので、端末での閲覧が難しい場合はそちらをご覧ください。ただし、部数が少ないため紙の資料が払底する場合がありますことをご了承ください。

※託児サービスについて模索いたしましたが、コロナ禍において託児団体が活動を休止しており、叶いませんでした。したがって、本大会では託児サービスはありません。

7. お問い合わせ先

●参加・発表申込・原稿投稿・諸費用に関すること

全国大学国語教育学会大会ヘルプデスク

E-mail: jtsj-desk@conf.bunken.co.jp

FAX:03-5227-8632

〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター

●年会費に関すること

全国大学国語教育学会事務局

E-mail: jtsj-post@as.bunken.co.jp

TEL:03-6824-9377 FAX:03-5227-8631

〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター

●第144回全国大学国語教育学会島根大会（対面）に関すること

島根大会事務局

E-mail: shimane.kokugo2020@gmail.com

TEL:050-5374-5660

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 島根大学教育学系内

全国大学国語教育学会 島根大会事務局 宛

*問い合わせは、Eメールでお願いいたします。

◆『国語科教育』第九十四集 投稿募集について

『国語科教育』編集委員会

1. 投稿論文の受付期間は2023年3月1日(水)～2023年3月31日(金)です。この期間以外に投稿された原稿は審査の対象となりません。
2. 今回から電子投稿システムによる募集となります。郵送による原稿募集はいたしませんのでご注意ください。電子投稿システムには学会ホームページから入ることができます。投稿システムのマニュアルが準備できましたら、学会ホームページでアナウンスいたします。
3. 投稿に際しては次の『「国語科教育」投稿要領』に従ってください。なお、電子投稿に対応するため以下の「原稿を投稿するにあたって」の投稿方法に関する箇所が修正されていますので必ずご確認ください。

「国語科教育」投稿要領（令和5年1月26日修正）

投稿論文の内容および体裁について

1. 論文原稿は未発表のものに限る。ただし、口頭発表、プリント類の場合はこの限りではない。なお、他誌に掲載された自らを著者とする論文と著しく重複する内容の論文を、投稿してはならない。
 2. 重複投稿の禁止
本誌『国語科教育』に投稿された論文等はその採否が決定するまで国内・国外を問わず他誌に投稿することはできない。また、他誌に投稿中のものは受付けない。
 3. 募集枠は、「研究論文」「実践論文」「資料」の三つのカテゴリーとする。どの枠に応募したものであるかが分かるように、そのことを題名の前に明記する。ただし、採択の枠付けに関しては、編集委員会の最終的な判断によるものとする。
研究論文：独創的な知見を含む学術研究。
実践論文：国語科の先行実践をふまえて、新たな実践の方向性や意義・価値について学術的な根拠に基づいて論じたもの。
資料：国語科教育学に関する基礎的データや国語教育の実践・研究に関する情報を提示したもの。
 4. 連続掲載は、原則として2回までとする。
 5. 論文原稿は、縦書きまたは横書きで、原則としてパソコンを使用する。
 6. 編集委員会において特に枚数を指定するもの以外の論文原稿は、原則として400字詰原稿用紙ほぼ40枚（8ページ分）以内とし、1ページあたりの字数・行数を次のようにする。
 - (1) 横書きの場合
23字×44行×2段（1ページ2,024字、ただし最初の1ページは、題目・氏名のスペースとして7行2段をとる。）
 - (2) 縦書きの場合
33字×31行×2段（1ページ2,046字、ただし最初の1ページは、題目・氏名のスペースとして7行2段をとる。）
- * 学会ホームページに記載している、**投稿原稿用のテンプレートを必ず使用すること。**

- * 引用および注の文字ポイントは本文と同じとする。ただし、図表についてはこの限りではない。
- * 図表は本文の中に含めて計算し、本文内に該当箇所を明示することとし、縮小率は8割以上とする。

7. 原稿は以下の体裁で整えること。

(1) 論文本体

- * 表題の下に、投稿論文に関わるキーワードを記すこと。

*** 論文には氏名・所属等，書き手を特定できる情報は書かないこと。（書かれている場合は審査対象から除外されます）**

(2) 注（ただし、引用のための注はつけない）

(3) 参考文献

- * **論文本体や注，参考文献に「拙稿」「拙著」など，投稿者名が判明するよ
うな記述を行わないこと。**

(4) 研究助成を受けた場合の記載

- * 科学研究費等の助成を受けた場合は、書き手が特定されないように、課題番号部分を以下のように記載すること。

（例：本研究は、JSPS科研費課題番号 **** * の助成を受けた）*の数は課題番号の文字数に合わせること。

8. 引用文献の記載について

(1) 引用文献の記載方法は、原則としてAPAスタイルに準拠する。

(2) 本文中における引用の記載方法は、次の通りである。

- ① 著者が一人の場合は、著者の姓および発行年を本文中に挿入する。

……（高橋，2010）。……（Black，1988）。

高橋（2010）は、……。Black（1988）は、……。

- ② 著者が二人の場合は、両方の著者の姓および発行年を本文中に挿入する。

……（高橋・鈴木，2012）。……（Black & White，1992）。

高橋・鈴木（2012）は、……。Black & White（1988）は、……。

- ③ 同一刊行年の文献は、刊行順にa, b, c, を刊行年に付し区別する。

佐藤学（1999a）『教育時評 1997-1999』世織書房

佐藤学（1999b）『学びの快樂 ダイアローグへ』世織書房

- (3) 論文末に、日本語文献と非日本語文献とに分けて参考文献を記載する。日本語文献は著者の姓の五十音順に、非日本語文献は著者の姓のアルファベット順に参考文献を掲載する。翻訳文献は、非日本語文献として記載する。記載方法の例は、次の通りである。

- ① 学術誌の論文

石井庄司（1953）「国語教育学の完成を期して」『国語科教育』第2号，1-4.

Posner, G. J., Strike, K. A., Hewson, P. W., & Gertzog, W. A. (1982). Accommodation of a scientific conception: Towards a theory of conceptual change. *Science Education*, 66(2), 211-227.

- ② 書籍

全国大学国語教育学会編著（2013）『国語科教育学研究の成果と展望 2』学芸図書

大槻和夫（1997）「国語科教師における国語教育学の目的と体系」全国大学国語教育学会編『国語教育学の建設1 国語科教師教育の課題』明治図書，1-104.

Fraser, B. J., Tobin, K. G., & McRobbie, C. J. (Eds.). (2012). *Second international handbook of science education*. Dordrecht, Netherlands: Springer.

Wertsch, J. V. (1991). *Voices of the Mind: A sociocultural Approach to Mediated Action*, Cambridge, Mass.: Harvard University Press. 田島信元他訳 (1995) 『心の声—媒介された行為への社会文化的アプローチ』福村出版.

③ オンラインからの引用

文部科学省 (2011) 「言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】」

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/gengo/1301088.htm (〇年〇月〇日確認)

Degelman, D., & Harris, M. L. (2000). *APA style essentials*. Retrieved May 18, 2005, from Vanguard University, Department of Psychology Web site:

http://www.vanguard.edu/faculty/ddegelman/index.cfm?doc_id=796

(4) 本文中の文献ページ数の記載は、以下のいずれかの方法に従う。

① 発行年の後に「:」(コロン)を入れて「著者名(発行年:ページ)」とする

例: 石井庄司(1957:2)は「〇〇〇」と述べている。

② 引用の最後にページ数を明示する。

例: 石井庄司(1957)は「〇〇〇」(p.2)と述べている。

③ 注の形式(脚注, または, 巻末注)で, 参照する文献のページ数を明示する。

例: 石井庄司(1957)は「〇〇〇」¹と述べている。 注1. 石井庄司(1957) p.2

原稿を投稿するにあたって

9. **学会ホームページから電子投稿システムによって投稿すること。**投稿に際しては、論文の電子ファイル(WordファイルまたはPDFファイル)が必要になる。なお、英文要旨と日本語要旨は論文掲載決定後に提出となる。
10. 投稿論文は、上期においては8月1日から8月31日までの期間、下期においては3月1日から3月31日までの期間に受け付けるものとする。
11. 著作権について
本誌『国語科教育』に掲載された著作物(電子媒体への変換による利用も含む)の複製権、公衆送信権、翻訳・翻案権、二次的著作物利用権、譲渡権等は本学会に譲渡されたものとする。著作者自身のこれらの権利を拘束するものではないが、再利用する場合は事前に本学会宛に連絡をする。
12. 投稿資格について
投稿にあたっては著者全員が会員資格を有し、当該年度までの年会費を納入していること。